

H3エリアB2タンク底板部のにじみについて

2015年5月25日

東京電力株式会社



無断複製・転載禁止 東京電力株式会社

1

事象の概要

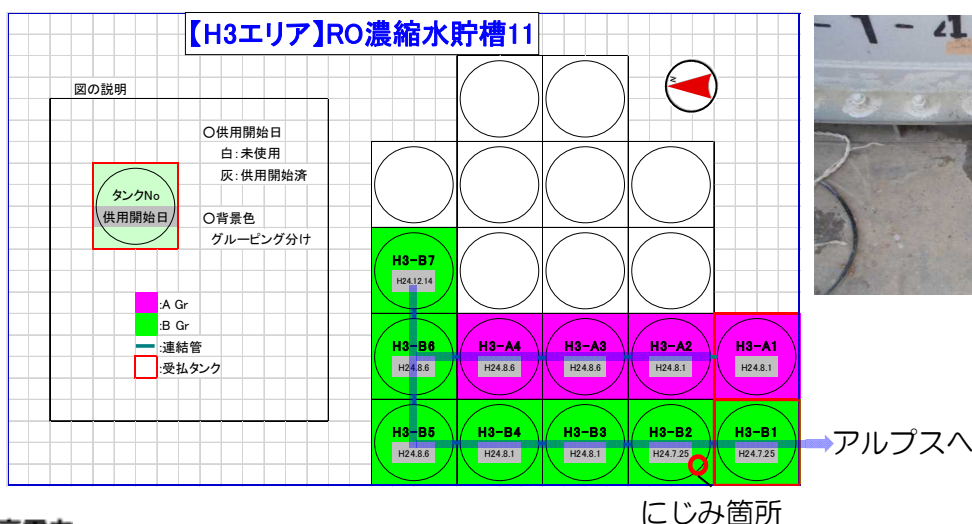
2015.4.18

- H3エリアの汚染水をアルプス処理するために、過去にホットスポットが見つかり水抜き保管中だったH3B2タンクに通水（※）し、アルプス処理を開始。

（※）2013.8に発生したH4エリアタンク漏えい事象後のフランジタンク総点検において、漏えいはしていないものの高線量の箇所が確認されたため、念のため水抜き保管していたもの。B3以降の連結タンク（下図参照）のアルプス処理には、B2タンクを経由が必要。

同 5.1

- パトロールにてタンク底板付近のにじみを発見（添付写真参照）。
- 直ちに当該タンクと後段の連結タンクを隔離し、当該タンクの水抜き（アルプスへの移送）を加速するとともに、にじみ箇所をコーキング処理し、吸水材と土嚢を設置。さらに監視用Webカメラを設置し、監視強化を開始（1回/h）。



■漏えいリスクの排除

●2015.5.7

- ◆アルプスへの水抜きにより底板より1.5m程度まで水位は下がったが、リスクを低下させるために当該のB2タンクに仮設ポンプを投入し、B1タンクへの移送を開始。水位10cm程度（2013年の高線量ホットスポット確認後の水抜き保管時と同程度）まで水抜き。

●同 5.11

- ◆更なる漏えいリスクの低減の為、にじみの確認された部位に接する底板材の残水を水位1cm程度まで水抜き完了。
- ◆堰内雨水に既に漏えいしたタンク内の汚染が混入しないよう、にじみ箇所の拭き取り清掃及び再塗装完了。堰内雨水処理について通常（RO処理後に散水）に戻した。

■RO濃縮水の全量処理への影響

- H3B2タンクより上流のタンクのRO濃縮水は、B3タンクに仮設ポンプを投入し、直接B1タンクに移送しアルプス処理（5/11より移送開始）。H3エリアは5月中に処理完了予定。

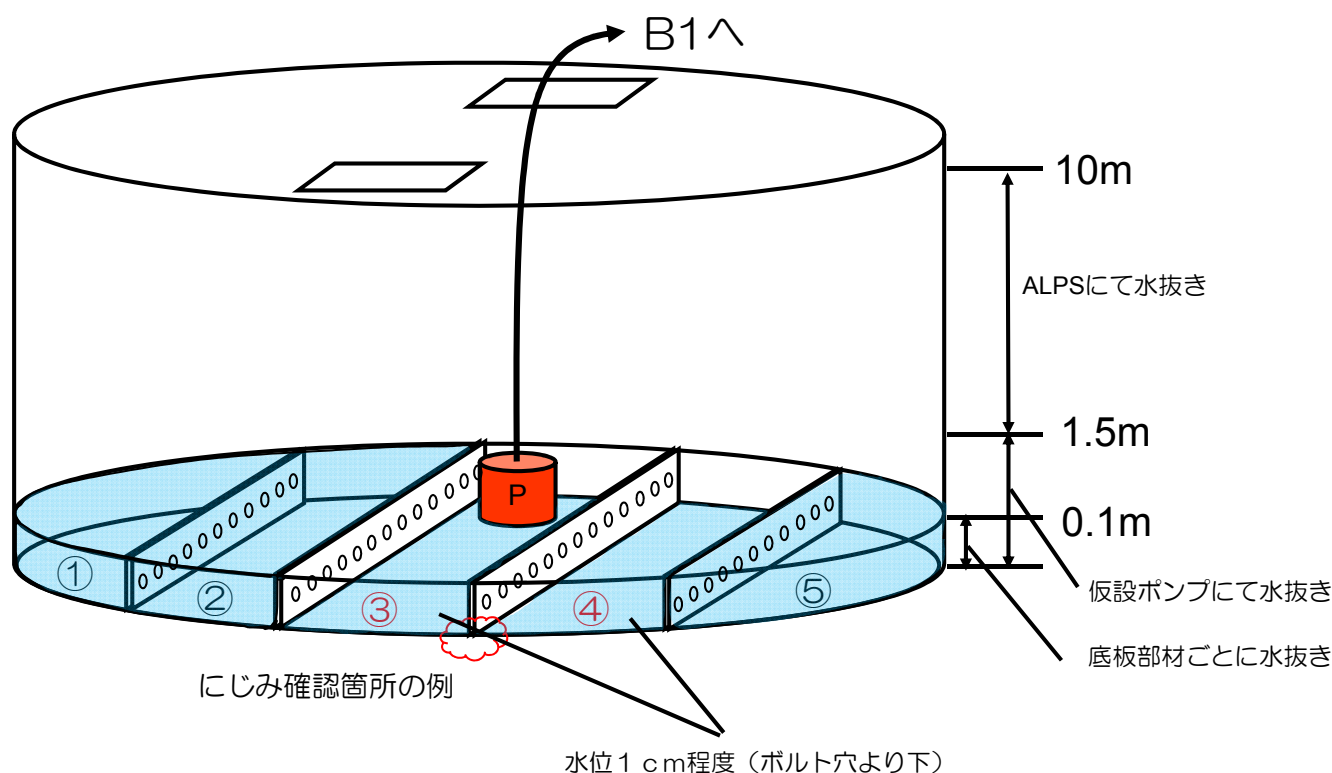
■その他

- 過去にホットスポットが確認されたH3A1タンクには通水を実施しておらず、水抜き保管しており、同様の事象は発生しないと考えている。

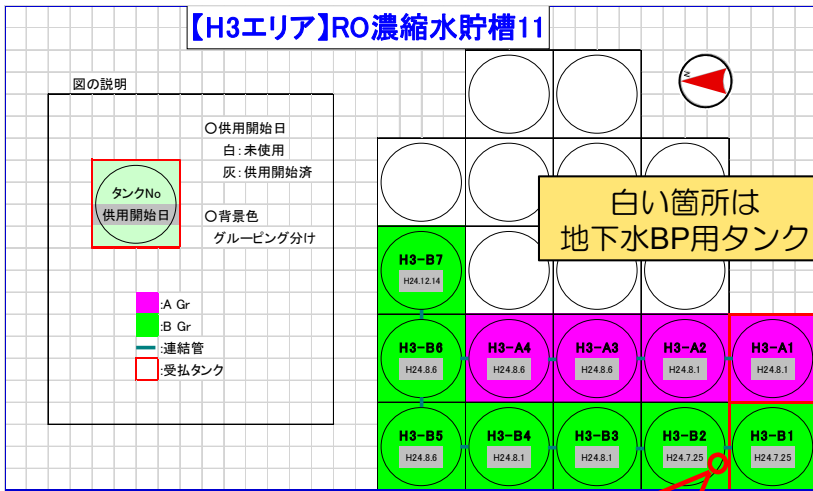


【参考】水抜き状況（5/11時点）

- にじみの確認された部位に接する部材（下記の例では③と④）に水中ポンプ等を落とし、水位をできる限り低下させた。



【参考】発生及び対応状況



ポリウレタ被覆
被覆範囲: 4.2m×1.0m
タンク側面: 0.24m



【発生状況】



【対応状況】